

藤田観光株式会社

定時モニタリング報告書

作成日 平成 28 年 12 月 6 日
作成者 株式会社森林再生システム

フォレストック認定番号	0031
フォレストック認定日	平成 25 年 12 月 20 日(第 1 年度)
定時モニタリング日	平成 26 年 12 月 20 日(第 2 年度)
定時モニタリング日	平成 27 年 12 月 20 日(第 3 年度)
定時モニタリング日	平成 28 年 12 月 20 日(第 4 年度)

【モニタリング実施概要】

1 対象森林の概要

平成 25 年 11 月「森林 CO₂ 吸収・生物多様性等調査報告書」記載のとおり

2 評価基準

「森づくりにおける森林吸収源・生物多様性等評価基準」平成 28 年 1 月 20 日改訂版

3 調査日程

(1) 調査日

平成 28 年 12 月 6 日

(2) モニタリング担当者名簿

氏名	所属	役職
望月 亜希子	株式会社森林再生システム	主任研究員

(3) モニタリング報告書作成責任者氏名

株式会社森林再生システム

望月 亜希子

1 フォレストック認定の基礎事情に関する特記事項

- ・ 対象森林の地権関係の変動 なし
- ・ 対象森林の境界紛争の有無 なし
- ・ 森林認証(FSC、SGEC)及び
森林経営計画の継続・更新・取消等の状況 森林経営計画継続中。計画期間：
平成 24 年 10 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日
- ・ 認定対象森林の面積の変動の有無 なし

2 森林管理・経営面に関するモニタリング

(1) 経営主体、経営組織、経営目的変更等の経営管理体制の変更に関する特記事項

- ・ なし

(2) (1)の他、「森林の CO₂ 吸収・生物多様性等調査報告書」作成時以降に発生した森林の経営・管理面の認定基準充足に著しい影響を及ぼすおそれ(※1)のある事情

- ・ なし

(3) フォレストック認定基準の充足に関する記載

- ・ 認定調査時と比較し、森林の経営管理の体制・方針に大きな変化は認められず、経営・管理面の評価は調査報告書と同水準を維持していると判断する。これにより、フォレストック認定基準である森林の経営・管理面の評価点数 50 点を維持。

(4) 大きな変化が明らかな(※2)評価項目については、その概要について記載する。

- ・ 大きな変化はない。

(※1)「認定基準充足に著しい影響を及ぼすおそれ」とは、フォレストック認定基準である 50 点を下回るおそれをいう。

(※2)「大きな変化」とは、フォレストック認定基準の充足とは関係なく、評価を大きく見直す必要がある場合を指す。

3 生物多様性等の評価に関するモニタリング

(1)「森林の CO₂ 吸収・生物多様性保全等に関する調査報告書」作成以後に発生した森林の生物多様性の認定基準充足に著しい影響を与えるおそれ(※1)のある事情

- ・ なし

(2)フォレストック認定基準の充足に関する記載

- ・ 認定調査時と比較し、周辺環境及び施業方法等に大きな変化は認められず、生物多様性面の評価は調査報告書と同水準を維持していると判断する。これにより、フォレストック認定基準である森林の生物多様性面の評価点数 50 点を維持。

(3)大きな評価の増減が明らかな(※2)評価項目については、その概要について記載する。

- ・ 大きな評価の増減はない。

(※1)「認定基準充足に著しい影響を与えるおそれ」とは、フォレストック認定基準である 50 点を下回るおそれをいう。

(※2)「大きな評価の増減」とは、フォレストック認定基準の充足とは関係なく、評価を大きく見直す必要がある場合を指す。

4 CO₂吸収量の確定・算定

(1) 施業に関する数値の集計・整理

① 主伐量・主伐予定量に関する数値の集計・整理

(単位: ha)

項目	A. 当該年度主伐予定量	B. 主伐実績量		C. B-A	翌年度主伐予定量
		申告済主伐実績量	みなし主伐実績量		
対象期間	平成 27 年 12 月 20 日～平成 28 年 12 月 19 日 (※1)	平成 27 年 12 月 20 日～平成 28 年 9 月 19 日 (※2)	平成 28 年 9 月 20 日～平成 28 年 12 月 19 日 (※3)(※4)		平成 28 年 12 月 20 日～平成 29 年 12 月 19 日 (※5)
スギ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヒノキ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

※1「当該年度主伐予定量」には、認定取得者から提出された「主伐予定量申告書」に記載されている主伐予定量を記載した。

※2「申告済主伐実績量」には、当該年度の 2 度の 6 カ月報告(「施業実績報告書」)の数値を記載した。

※3「みなし主伐実績量」とは、当該年度において 2 度目に提出された施業実績報告書に記載された、施業対象期間満了日の翌日から翌年度の定時モニタリング日(次年度の年度当初日)の前日までに認定取得者が見込んでいた主伐量のことをいう。上記表のみなし主伐実績量の欄には、定時モニタリングの際に、認定取得者が森林認証機関のモニタリング調査担当者及び当協会に提出する「みなし実績量申告書」に記載された数値を記載した。

※4 認定取得者は、翌年度の定時モニタリング日(次年度の年度当初日)から 2 週間以内に、「施業実績報告書(みなし期間)」を当社及びフォレストストック協会に提出する。当社は、認定取得者から提出された「施業実績報告書(みなし期間)」に記載された申告実績量(以下「確定申告実績量」という。)が事実と異なるおそれがあるか否かについて、定時モニタリング日の属する月の翌月末までに、必要に応じ認定取得者からの聞き取り又は認定取得者に帳票類(森林施業計画、伐採届・伐採許可・造林届出及び販売関係帳票等の写し等)の提出を求める等の手段により調査確認を行い、確定申告実績量の記載内容が事実と異なるおそれがあると思料する場合には、定時モニタリング日の属する月の翌月末までにその旨をフォレストストック協会に報告する。(「みなし実績量確認手続」)

※5「翌年度主伐予定量」は、認定取得者が当社及びフォレストストック協会に対し、定時モニタリング日(翌年度の当初日)から 2 か月前までに提出した主伐予定量申告書に記載された数値を記載する。

② 自然災害等による被害(CO₂吸収量の減算要因)

- ・ なし

③ 樹種別更新量・更新予定量に関する数値の集計・整理

(単位:ha)

項目	A. 当該年度更新予定量	B. 更新実績量		C. B-A	翌年度更新予定量
		申告済更新実績量	みなし更新実績量		
対象期間	平成 27 年 12 月 20 日～平成 28 年 12 月 19 日 (※1)	平成 27 年 12 月 20 日～平成 28 年 9 月 19 日 (※2)	平成 28 年 9 月 20 日～平成 28 年 12 月 19 日 (※3)(※4)		平成 28 年 12 月 20 日～平成 29 年 12 月 19 日 (※5)
スギ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヒノキ	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

※1「当該年度更新予定量」には、年度当初に認定取得者から提出された「主伐予定量申告書」に記載されている樹種別更新量を記載した。

※2「申告済更新実績量」には、当該年度の 2 度の 6 カ月報告(「施業実績報告書」)の数値を記載した。

※3「みなし更新実績量」とは、当該年度において2度目に提出された施業実績報告書に記載された、施業対象期間満了日の翌日から翌年度の定時モニタリング日(次年度の年度当初日)の前日までに認定取得者が見込んでいる更新量のことをいう。上記表のみなし更新実績量の欄には、定時モニタリングの際に、認定取得者が森林認証機関のモニタリング調査担当者及びフォレストック協会に提出する「みなし実績量申告書」に記載された数値を記載した。

※4 認定取得者は、翌年度の定時モニタリング日(次年度の年度当初日)から 2 週間以内に、「施業実績報告書(みなし期間)」を当社及びフォレストック協会に提出する。当社は、認定取得者から提出された「施業実績報告書(みなし期間)」に記載された申告実績量(以下「確定申告実績量」という。)が事実と異なるおそれがあるか否かについて、定時モニタリング日の属する月の翌月末までに必要に応じ認定取得者からの聞き取り又は認定取得者に帳票類(森林施業計画、伐採届・伐採許可・造林届出及び販売関係帳票等の写し等)の提出を求める等の手段により調査確認を行い、確定申告実績量の記載内容が事実と異なるおそれがあると思料する場合には、定時モニタリング日の属する月の翌月末までにその旨を当協会に報告する。(「みなし実績量確認手続」)

※5「翌年度更新量」は、認定取得者が当社及びフォレストック協会に対し、定時モニタリング日(翌年度の当初日)から 2 か月前までに提出した「主伐予定量申告書」に記載された樹種別更新量を記載した。

(2)(1)の数値につき、森林施業計画、伐採届・伐採許可、販売関係諸帳票などを勘案して、特段の意見があれば以下に記載する。

- ・ 特になし。

(3) 当該年度の CO₂ 吸収量の確定

今年度は主伐、植栽は行われなかったため、控除および加算される吸収量はなしとする。

	第3年度 年間吸収総量	主伐による 吸収源減算	更新による 吸収源加算	第3年度 年間実吸収量
年間炭素吸収量 t-C/年	677.8	0	0	677.8
年間 CO ₂ 吸収量 t-CO ₂ /年	2,485	0	0	2,485

(4) 次年度の CO₂ 吸収量の算定

次年度の主伐、植栽の計画はないため、控除および加算される吸収量はなしとする。

	第4年度 年間吸収総量	主伐による 吸収源減算	更新による 吸収源加算	第4年度 年間実吸収量
年間炭素吸収量 t-C/年	677.8	0	0	677.8
年間 CO ₂ 吸収量 t-CO ₂ /年	2,485	0	0	2,485

5 評価・算定数値向上のための指摘事項

- ・ 今年度も林道・作業道を新たに約 2,100m 開設して、継続的に間伐による木材生産が行われており、経営面から評価できる。来年度も林道・作業道を約 2,000m 延長していく予定である。
- ・ 一方で、昨年度同様に森林資源構成および持続的な森林経営の側面からは、主伐により徐々に森林の更新も検討していく必要があると言える。
- ・ 認定時からの課題であった一部不適切に開設された作業道の改善については、来年度修復作業が開始される予定となり改善の見通しがたった。

6 報告書作成にあたり確認等した資料及び書類等

- ・ 森林経営計画(平成 24 年 10 月 1 日～平成 29 年 9 月 30 日)
- ・ 伐採に関する書類
- ・ 木材販売に関する書類

定時モニタリング結果報告 (第4年度)

認定取得者名: 藤田観光株式会社
対象森林所在地: 和歌山県新宮市熊野川町
フォレストック認定日: 平成25年12月20日
定時モニタリング日: 平成28年12月20日
モニタリング報告書作成日: 平成28年12月6日

1 生物多様性の評価に関する特記事項

(森林CO₂吸収・生物多様性等調査報告書」作成時以降の著しい変化)
なし

2 森林の管理・経営の評価に関する特記事項

(森林CO₂吸収・生物多様性等調査報告書」作成時以降の著しい変化)
なし

3 森林吸収源の評価

(1) 第1年度(平成25年12月20日～平成26年12月19日)確定数量

年間炭素吸収総量 : 677.8 t-C/年
年間CO₂吸収総量 : 2,485 t-CO₂/年
実年間CO₂吸収量 : 2,485 t-CO₂/年

(2) 第2年度(平成26年12月20日～平成27年12月19日)確定数量

年間炭素吸収総量 : 677.8 t-C/年
年間CO₂吸収総量 : 2,485 t-CO₂/年
実年間CO₂吸収量 : 2,485 t-CO₂/年

(3) 第3年度(平成27年12月20日～平成28年12月19日)確定数量

年間炭素吸収総量 : 677.8 t-C/年
年間CO₂吸収総量 : 2,485 t-CO₂/年
実年間CO₂吸収量 : 2,485 t-CO₂/年

(4) 第4年度(平成28年12月20日～平成29年12月19日)算定数量

年間炭素吸収総量 : 677.8 t-C/年
年間CO₂吸収総量 : 2,485 t-CO₂/年
実年間CO₂吸収量 : 2,485 t-CO₂/年

証明者住所: 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-3-5 2F

証明者所属機関: 株式会社森林再生システム

氏名: 望月 亜希子

